

松永町長 それがです。ね。県も数年米から老人の面も考えてご検討いただいておりますのですけどなかなか良い方向にいかないのです。油谷町ではむしろ五頭飼いかかをめざしてやろうという農家の方が多いわけです。

藤本農林部長 おっしゃるように、現在の飼育規模を拡大することも一つの方法です。堆きゅう肥を田んぼに還元することによって地力を上げていくということを考えてみますと、お年寄りや主婦の方の一・二頭飼いによる底辺の拡大ということについても考えていきたいと思っています。

鈴木所長 昭和五八年度の米の収量は特に北浦地区は低かったわけですが、その中で油谷町は上位等級米の比率が非常に高く、そして限度数量に対する実績も農協別にみますと向津具地区だけがオーバーしています。ですから私は畜産との関係があるのではないかと考えております。



鈴木所長

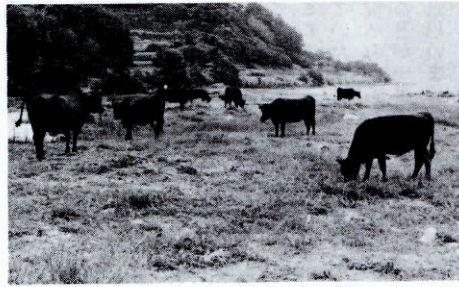
松永町長 それはおおいにありませう。

鈴木所長 そういうことから米作りと畜産農家との連携、自分の経営の中でもそうですし、また、集

落の中での連携というものをしっかり話し合っていくことが大事ではないかと思えますね。

藤本農林部長 やはり耕種農家と畜産農家の結合といえますか、それが大事だと思いますね。

松永町長 子牛価格安定基金の問題ですが一、七〇〇万円ほど金が



肉用牛の放牧

足りないということですが、今後の畜産振興のためにも是非県の配慮をお願いしたいと考えます。

藤本農林部長 最近の子牛価格の低迷は非常に長期化しています。

そのため子牛価格安定基金協会の価格補てん財源も不足する事態になってきました。しかしながら畜産農家の方々の窮状はよくわかりますので基金協会では、国からの借入れによって昨年と同じ位の価格補てんをしていくことを先日の理事会で決定したところでです。

松永町長 大変良い制度で、町内の畜産農家もこの制度がある以上安心して牛が飼えるといっておるわけですから、この制度が崩れる

ようなことになりますと畜産農家の生産意欲というものが落ちてまいりますからご配慮をお願いいたします。

藤本農林部長 国にも要望していきたく思いますし、県としても来年の予算の中で対策を検討し

## 婦人のパワーに期待

松永町長 ここで農家の婦人の活力についてお願いします。

松岡普及員 現在の油谷町で農業をする人を見ましたら女性の方が多いわけです。そして主体としてどちらが農業をするかということになりますと六四・三パーセントが女性であるということ。なのに油谷町の将来で農業の話とか、基盤整備の話とかになりますと男性が出席するわけです。婦人は家庭を守り家族の健康を考えることだけではなしに、もっと広い目で

農業について勉強していかなければならぬ時が来たと思います。松永町長 男性が行かないと家がおさまらないのでしょうか。松岡普及員 そういう時には夫婦で行くべきだと思います。松永町長 そういうことは男性の仕事だと思っているようです。松岡普及員 婦人の方も自分から参加するというように、時代が変わったということを認識してもらいたいと思いますし、行政側も婦人が出席できるように体制づくりをすすめてほしいと思います。それと、生活改善グループというのがありまして、これは生活を良くしようとする人のグループですが生活を良くするためには、所得も上げなければならぬということ。でいちご・玉葱・ばれいしょを始められたんです。婦人が手がけ

ています。この価格補償がないようになりますと、農家の飼育意欲というものが非常に低下されるのではなからうかと懸念をしております。なんとかこの畜産を振興していきたく、牛を増やす対策を考えていかなければいかんと思います。

られて今ではある程度の面積に納まっているようです。このように婦人がやる気を出せば素晴らしい力があると思っております。



ハウスいちご栽培

## ローカル色豊かな産地づくり

松永町長 生活改善センターという立派なものを昭和五七年度に造

ってもらいまして普及所の担当の方に指導を願っております。